

再生可能エネルギー先駆けの地 ふくしまイノベーション戦略推進地域

再生可能エネルギー先駆けの地ふくしまの実現に向けた
産業集積と持続循環社会の構築

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…福島県再生可能エネルギー
関連産業推進研究会
学…福島大学、
日本大学工学部、
いわき明星大学、会津大学
官…福島県、
福島県産業振興センター
金…東邦銀行

地域イノベーション戦略

東日本大震災及びそれに伴い発生した原子力発電所事故からの復旧・復興を目指す福島県を「再生可能エネルギー先駆けの地」として再生するため、次世代太陽電池・地中熱利用技術など世界最先端の研究開発等によりイノベーションを創出し、関連産業の集積を図ります。また、これらの成果を積極的に導入し、県内にある豊富な自然エネルギーを効率的に利活用して、災害に強く県民が安心して生活できる持続可能な循環型社会の実現を目指します。



プロジェクトディレクター
服部 靖弘

略歴：北芝電機(株)
代表取締役社長
北芝電機(株) 相談役
福島県再生可能エネルギー
関連産業推進研究会 会長

震災と原発事故を経験した福島県は復興ビジョンの中で「再生可能エネルギーの飛躍的推進による新たな社会づくり」を挙げています。その実現に向けて県内の産・学・官・金の組織が連携して再生可能エネルギー分野の研究開発と人材育成、雇用創出に取り組んでいます。復興への貢献と若者が未来に向かって笑顔で働くことができる仕事の創出が目標です。

事業の内容

【全体計画及び成果】

再生可能エネルギー先駆けの地ふくしまの実現と、災害に強い持続可能な循環型社会の形成を目指して、県内の産・学・官・金が連携して、研究開発、人材育成、知のネットワークづくりに取り組んでいます。研究開発の成果を企業等に積極的に技術移転することで、県内の産業の活性化と、イノベーションエコシステムの構築を目指します。現在までに県内企業を中心に約30社が事業化に参加しています。

を持つ人材を集積して、各々が連携しあい、①次世代太陽電池の研究開発と産業集積モデル化への展開、②災害に強いエネルギー自立・自然共生システム基盤技術の研究開発(「小型風力発電システム」、「浅部地中熱利用システム」、「廃熱発電システム」)、③持続可能な循環型社会を実現するスマートグリッド情報基盤の研究開発の3テーマに取り組み、再生可能エネルギー関連産業の集積による雇用創出や街づくり計画への参画を通じて地域再生・復興への貢献を具体化しつつあります。

【実施する支援メニュー】

1. 地域イノベーションの戦略の中核を担う研究者の集積

(実施機関：福島大学、日本大学工学部、いわき明星大学、会津大学)

実施機関である4大学にそれぞれの分野に優れたスキル

2. 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施 (実施機関：福島大学)

社会人を対象とした「再エネ事業プランナー」の育成に

加え、産業技術総合研究所と連携して県内企業に勤める社会人を対象とした連携大学院を開設し「再生可能エネルギー分野」の講義を開放するなど、再エネ人材育成の取り組みが拡大しています。



▲次世代太陽電池



▲浅部地中熱利用システム



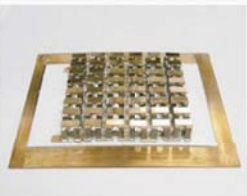
▲小型風力発電



▲事業プランナー養成



▲スマートグリッド情報基盤



▲廃熱発電素子



▲人材育成・連携大学院